

# 平成18年度 文部科学省研究開発評価シンポジウム 概要

## ～ 研究開発マネジメントに活かす評価へ ～

平成19年2月27日(火) 14:00～18:30

丸の内 MY PLAZA ホール

主催：文部科学省 科学技術・学術政策局 評価推進室

### 【主旨・目的】

研究及び開発(以下「研究開発」)は、分野深化、大規模化、融合化等の方向に加えて、社会的・経済的な要請や国民への成果還元のために、より効果的で効率的な推進が求められています。

そのため、評価対象がより複雑な対象へと拡大している中、評価パフォーマンスの水準も高度なものが必要となっており、評価システムの改革が求められています。

文部科学省科学技術・学術政策局評価推進室では、こうした状況を踏まえて平成15年度より、特に現場における研究開発評価の実態と課題を把握するための現地調査を各機関のご協力のもと実施してきており、その中で把握できた様々な課題の解決に向けた支援事業を推進しています。

本主旨に基づき、より多くの研究開発機関における研究開発評価の効率化及び充実に促進するとともに、評価関係者の評価意識の向上や評価関係者同士の連携促進を目的として、昨年度に引き続きシンポジウムを企画・開催いたします。

### 【テーマ】

#### 『研究開発マネジメントに活かす評価へ』

昨年度までは、各機関で行われている評価について、実情と課題の把握を目的とした現地調査を実施してきましたが、評価の仕組み作りにおいては「活かされる評価」の重要性を再認識しました。

そこで今年度は、この「活かされる評価」の実現のため、研究開発評価とマネジメントとの関係、特に「研究開発マネジメントに活かす評価」に重きを置き、19機関に現地調査にご協力いただきました。

本シンポジウムでは、この観点から、特徴ある研究開発評価を実施している4機関の実例を、仕組みを構築していくこととなった「きっかけ」や構築及び運用にあたって工夫した点、問題となったこと、今後の課題についてもふれてご紹介いただくとともに、パネルディスカッションでは、「研究開発マネジメントに活かす評価へ」というテーマで、参加者を交えての意見交換を行います。